

病床機能再編計画

医療機関名 西弘前クリニック

病床数(床)

平成 3 0 年度病床機能報告 現在 (H30.7.1)

一般病床(A)	18	高度急性期(a)	
療養病床(B)		急性期(b)	
		回復期(c)	
		慢性期(d)	18
		休棟中	
		うち再開予定有(e)	
		〃 無(f)	
計(A+B)	18	計(a+b+c+d+e+f)	18

将来 (R2.4.1) ※R8.3.31まで

一般病床(G)	0	高度急性期(g)	
療養病床(H)		急性期(h)	
		回復期(i)	
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	0	計(g+h+i+j+k)	0

(上記内容 (減床) の考え方について)

当院は 3 0 年以上地域医療として入院ベッドを活用し住民医療に貢献してきましたが、人口減少や高齢化等、社会構造の変化に鑑み、今般、慢性期病床全 1 8 床を減床し、当初からの住民医療を基本として、グループホーム等の介護活動に注力して活動することに致しました。

H30病床機能報告の数値

平均在院日数 一般： 348日

病床利用率 一般： 62.7% 療養： %

病床稼働率 一般： % 療養： %

診療科 合計 6 科 外科・内科・整形外科・泌尿器科・皮膚科・肛門科

主な紹介元医療機関 弘前大学医学部附属病院・国立病院機構弘前病院・健生病院

主な紹介先医療機関 弘前大学医学部附属病院・国立病院機構弘前病院・健生病院

当院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】

弘前市の一開業医として患者尊重をモットーとした医療及び介護を基本としてスタッフ一同頑張っています。

グループホーム設立、訪問看護及医療等

【主な患者像、地域の役割等】

高齢者・独居者・家族との関係がうすい患者等・急性期病状の患者・働き盛りの中年者等・患者数は減ってきているものの頑張っています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

開業医としての未来も協力者もいれば別ですが今は繰り返しになりますが医療と介護両面の充実を目指しています。医療法人光成会として、グループホーム西弘・訪問看護及医療（愛成会病院と契約）ディケア（今は休止）等を通じて地域に貢献しています。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

担当看護師（ケアマネージャー資格有）当院設立のグループホーム施設との連携を充実させ患者の生活全般を支援しています。

<訪問診療>

現在2名 その他往診も行っております。

<後方支援>

グループホーム西弘退所後も支援し、他施設と協力関係を目指しています。

<看取り>

グループホーム西弘に出来る限りの看取りをし数多く対応してきました。これからも充実させたいと思っております。医療器具の設備及看取り部屋の環境及家族待機場所の整備等が早めに望まれています。

病床機能再編計画

医療機関名 小堀クリニック

病床数(床)

平成 3 0 年度病床機能報告 現在 (H30.7.1)

一般病床(A)	14	高度急性期(a)	
療養病床(B)	5	急性期(b)	19
		回復期(c)	
		慢性期(d)	
		休棟中	
		うち再開予定有(e)	
		〃 無(f)	
計(A+B)	19	計(a+b+c+d+e+f)	19

将来 (R3.8.1) ※最長R8.3.31まで

一般病床(G)	0	高度急性期(g)	
療養病床(H)	0	急性期(h)	
		回復期(i)	
		慢性期(j)	
		休棟予定(k)	
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	0	計(g+h+i+j+k)	

(上記内容 (減床) の考え方について)

地域医療構想に即した病床機能再編に協力するため、一般病床・療養病床を廃止いたします。

H30病床機能報告の数値

平均在院日数 一般： 15 日

病床利用率 一般：0.4 % 療養：0.4 %

病床稼働率 一般：0.4 % 療養：0.4 %

診療科 合計 7 科 外科、泌尿器科、皮膚科、内科、循環器内科、小児科、胃腸科内科

主な紹介元医療機関 国立弘前病院

主な紹介先医療機関 健生病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】

【主な患者像、地域の役割等】

これからは、増々地域に密着した医院として、地域の皆様のニーズに寄り添いたいと思います。

当院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

施設転換、建て替え等は考えてなく、無床の医院として地域のために診療したいと思います。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

<訪問診療>

増々訪問診療に取り組んでいきたいと思います。

<後方支援>

<看取り>

希望があれば在宅の見取りも考えたいです。

病床機能再編計画

医療機関名 佐藤クリニック内科循環器科

病床数(床)

平成 3 0 年度病床機能報告 現在 (H30.7.1)

一般病床(A)	0	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	36	急性期(b)	0
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	36
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	36	計(a+b+c+d+e+f)	36

将来 (R8.03.31) ※R8.3.31まで

一般病床(G)	0	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	18	急性期(h)	0
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	18
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	18	計(g+h+i+j+k)	18

(上記内容 (減床) の考え方について)

令和3年2月に病院からクリニックへ変更し、病床数は19床に減床したものの、今回 1 床減床することについては、談話室を「より利便性が高くなるようにして欲しい」と入院患者様から要望があり、談話室を移設することに伴う減床であります。

H30病床機能報告の数値

平均在院日数 療養： 148 日

病床利用率 一般： % 療養： 70.2%

病床稼働率 一般： % 療養： 70.2%

診療科 合計 3 科 (内科・循環器科・外科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院・青森市民病院

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院・青森市民病院

当院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】

当院は

- ①地域からの慢性期治療の受け入れの要請
- ②医療依存度の高い患者様等に対応しています

【主な患者像、地域の役割等】

当院は、地域の身近な医院であることを目指し、より高度な医療機能を有する病院との連携に力を入れています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

現在、病床稼働率は順次変化していますが、クリニックに変換後1年が経過したことから、全般的に見直し、改革等を行い現況を維持改善していきます。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

ご家族様から在宅医療の希望があった場合には取り組みをしていきます。

<訪問診療>

要望があり次第、訪問診療を行っていきます。

<後方支援>

要望がありません。

<看取り>

要望があれば積極的に対応をしていきます。

病床機能再編計画

医療機関名 つがる西北五広域連合かなぎ病院

病床数(床)

平成 3 0 年度病床機能報告 現在 (H30.7.1)

一般病床(A)	60	高度急性期(a)	
療養病床(B)	40	急性期(b)	60
		回復期(c)	40
		慢性期(d)	
		休棟中	
		うち再開予定有(e)	
		〃 無(f)	
計(A+B)	100	計(a+b+c+d+e+f)	100

将来 (R7.7.1) ※R8.3.31まで

一般病床(G)	50	高度急性期(g)	
療養病床(H)	20	急性期(h)	
		回復期(i)	50
		慢性期(j)	20
		休棟予定(k)	
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	70	計(g+h+i+j+k)	70

(上記内容 (減床) の考え方について)

現在一般病棟は急性期、療養病棟は回復期として報告をしている。年々地域人口の減少と高齢化が進み、患者層も高齢化している。今後は回復期中心の病床再編を行い、将来的には上記に記載の病床数へ変更する。病棟は 1 病棟とし、在宅復帰支援など地域患者に合わせた病院運営を行う。

H30病床機能報告の数値

平均在院日数 一般：18.3日

病床利用率 一般：84.3% 療養：81.4%

病床稼働率 一般：93.8% 療養：77.7%

診療科 合計 6 科

内科 外科 小児科 整形外科 眼科 婦人科

主な紹介元医療機関

つがる総合病院、弘前大学医学部附属病院

主な紹介先医療機関

つがる総合病院、弘前大学医学部附属病院

当院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

津軽地域では、人口の高齢化が進み、当院を利用している患者は高齢者が多く見られる。救急告示病院として、入院医療と初期医療を行っており、在宅復帰支援や訪問診療なども行っている。令和3年には、病床再編を行い、回復期中心の病床とし在宅復帰支援に益々力を入れていく予定である。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

現在の病床機能報告では、一般病棟を急性期として報告している。令和3年度には回復期中心の病棟再編を行い病床転換を行う。また、圏域人口の減少などの理由により患者数の減少傾向が見られるとともに、患者の高齢化が見られるため訪問リハビリや在宅復帰支援などに力を入れていく。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の看護師、社会福祉士が、患者家族の要望に沿った退院計画を立て、スムーズな在宅復帰を支援している。今後も在宅支援を必要とする患者増加が見込めるため、力を入れていく。

<訪問診療>

北津軽地域において、自宅・介護施設に合わせて年間約400件の訪問診療を行っている。今後は高齢化が進むことにより自宅への訪問が増加することが見込まれる。

<後方支援>

かかりつけ診療所の患者が急変した場合に、受入れを行っている。今後も継続して後方支援を行っていく。

<看取り>

患者家族からの要望があれば、可能な限り対応している。こちらも継続して実施していく。